MS P.MU / CERUMO・INGING Race Report Season 2020, Take Free Paper. ©INGING MOTOR SPORT Supported by WUCA Co., Ltd.

INGING MOTORSPORT

NEWS PAPER

Vol. 6
2020

Take Free!

SUPER FORMULA 2020 JMS P.MU/CERUMO・INGING Race Report

NEXT RACE Round 7 富士スピードウェイ 12.20 SUN

Chapter.6 ファイナルファイト

RACE ARCHIVE

決戦のエピローグ

荒れ地と化すサーキット

The Final Fight

INTERVIEW

■ チーム監督 立川 祐路
「最終戦、岡山Rdのようなレースを もう一度」

■ 38号車 ドライバー 石浦 宏明
「最終戦に向けた 改善へ」

■ 39号車 ドライバー 坪井 翔
「良い部分を 最終戦の富士へ」

3回目のセーフティーカーサーキットは荒地と化した。

RACE ARCHIVE

レースアーカイブ Round.5・決勝 鈴鹿サーキット

決勝 12月5日(土)<決勝> 天候:晴れ・曇り|コース状況:ドライ

冬空も青く風が冷たく感じる13時15分、オンタイムにてフォーメーションラップがスタートした。タイヤを温める為にエクストラフォーメーションラップが2周設けられた。その際に止まってしまったクルマ、ピットに戻るクルマもあり、集中力を保つのが難しい幕開けながらも全車がグリッドについた。決勝は30周から2周減算され28周でスタートした。オープニングラップで64号車がコースアウト。マシン回収の為1度目のセーフティーカーが入ることに。マシンの回収が終わると6周目でグリーンフラッグが振られリスタートとなった。39号車坪井は、13番手からスタートし、オープニングラップで9位へ。リスタート後、15号車の猛追を受けるも逃げ切る。

10周が終了するとピット作業が可能になる為、ルーティンのピット作業に向かうクルマが多く、前が開けた為そのままステイし6位で走行。12周で5位。続々と前の車がピットに向かい14周で2位まで浮上。38号車石浦は、オープニングラップで11位へ。10周終了で39号車と同様にステイした為8位。12周で6位、13周目で5位、14周で3位となった。この14周時点でトップ5号車から約10秒のギャップ。5号車は18周目にピットインし、1-2体制となった。18周目で50号車がクラッシュし、セーフテーィカーがすぐさま導入された。そのタイミングでピットに向かう2台。38号車は、セクター2で左リアタイヤがバーストしてしまう。ピットに戻るタイミングとセーフティーカーが同時になったものの、ピットに戻るのに時間を要した。39号車は6.8秒の速さでピット作業を終えると5位でコース復帰。ようやくピットに戻った38号車は、10位でコース復帰。22周が終了しセーフティーカーがピットインし、23周目でリスタートとなった。石浦は、65号車をパスし9番手。23周目のホームストレートで4台のクルマが4ワイド状態で1コーナーに進入する際に接触があり大クラッシュ。その中に巻き込まれた1台が39号車。ここで、3度目のセーフティーカーが導入された。39号車はこのクラッシュによるダメージが大きく、残念ながらこれによりリタイアとなった。ここで前にいた3台が戦線離脱となり石浦は6番手にポジションアップ。残り2周でレースが再開、石浦はこの荒れたレースを完走。14番手からスタートし最終的に6位でチェッカーを受けた。

Results
#38 石浦 宏明 予選 14位 決勝 6位
#39 坪井 翔 予選 13位 決勝 リタイア

INTERVIEW

石浦 宏明 38号車 ドライバー

「予選で今出来る事にはトライし、クルマの限界が若干上がり光明が見えてきた感じはしました。しかし、他の速いクルマとの差が大きく予選上位を望める感じではなかったです。決勝ペースは昨日よりは良くなく、セットアップの変更は反省点もあり、狙っていた鈴鹿での大量得点を獲得することができませんでした。鈴鹿ではチーム全体で速さを出せていないですし、今シーズンサーキットによって戦績の上下が激しいので2台とも速いクルマを仕上げていくことを考えていかなくてはと思います。またピット作業も成功率が低く、最終戦に向け可能な限り改善していこうと思っています」

坪井 翔 39号車 ドライバー

「予選は、トップとの差があってそこを埋めたいと思っていました。セクター3、4は自己ベストで改善できましたが、得意な箇所とそうではない箇所のバランスが良くないです。しかし、予選ではそのポイントから結果以上に得られたものがありました。決勝では、スタートが決まりましたが、SCが入ったのでピットに入るしかなく、またピット作業のミスもありましたが、他でもミスがあったのか4番手で復帰できたのは不幸中の幸いでした。レース再開後、前を行く関口選手を抜きたかったですが近づけばダウンフォースが抜けたり、後方からの追い上げもすごかったですが、苦しいながらも4位でポイントは獲ることができました。週末を通して、2戦とも良いところもありました。決勝のペースは悪くないので、この良い部分を最終戦の富士へ持って行きたいですね」

立川 祐路 チーム監督

「坪井は、スタートも決まって順位を上げ序盤から良い展開でした。ピット作業のミスは、チームとして改善が必要ですし、特にそのミスの煽りを受けてしまった石浦には申し訳ないと思っています。スタート位置を考えると、追い上げることが出来たことは良かったと思います。残り1戦、最後はまた1－2フィニッシュをした岡山ラウンドのようなレースができるよう頑張りたいと思います」

The Final Fight! We are Go!

Results
#38 石浦 宏明 予選 13位 決勝 10位
#39 坪井 翔 予選 11位 決勝 4位

レースはいよいよ最終局面へ

To be Continued...

RACE ARCHIVE

レースアーカイブ Round.6・決勝 鈴鹿サーキット

決勝 12月6日(日)<決勝> 天候:晴れ・曇り|コース状況:ドライ

鈴鹿ラウンド2日目。冬晴れ、そして昨日よりも若干気温の低い朝を迎えた。風はなく、日差しは暖かく絶好のレース日和。第5戦と2日連続でレースフォーマットも全く同じ。前日から学んだことも多く、それを少しでも活かしたい第6戦。ランキングの変動から予選グループのメンバーも変わり、また新たな気持ちで一日がスタートした――――――――――――――――。

クルマの状況を鑑みると、予選の順位は想定内だが、そこからどれだけ追い上げるか、また昨日決勝中に、2台が同時にピットインすることになってしまった点はリスクがある為、それを避けるべくピットインを、坪井が後、石浦を先に入れるという戦略にした。12,500人の観衆を集め、2周のフォーメーションラップののちレースがスタートした。10番手スタートの坪井は、1周目で7位、3周目に36号車をパスし6位へ浮上。石浦は12番手からスタートし、オープニングラップで1つポジションを落とし13位。その後、2台のクラッシュで1度目のセーフティカーが導入される。7周目でレース再開となったが、8周目でトップ走行中の1号車がエンジントラブルによりスローダウン、2度目のセーフティカーが入った。この時点でポジションは、坪井4番手、石浦10番手。セーフティーカーラン中に10周目を迎えると、ピット作業が可能となる為ピットに向かうクルマが多数いた。レース前の戦

ピットインを、坪井が後、石浦を先に入れる戦略に

最終戦、岡山Rdのようなレースをもう一度

良い部分を最終戦の富士へ

最終戦に向けた改善へ

MS P.MU / CERUMO・INGING Race Report Season 2020, Take Free Paper.
©INGING MOTOR SPORT Supported by WUCA Co., Ltd.